



英語フェスティバルを開催

2月1日(土)、入間川小学校で、今年で8回目となる狭山市小中学生英語フェスティバルが開催され、児童や保護者、教職員など200名以上が参加しました。70名の小学生が英語の歌や物語の暗唱など、それぞれが日ごろの成果を堂々と発表し、会場の参観者もクイズに答えたり、一緒になって英語で歌ったりと楽しい時間を過ごしました。

また、市内のALT（語学指導助手）と英語でゲームを楽しむ交流の部では、初めて中学生がボランティアとして参加し、小学校低学年の児童に付き添って助ける姿が見られました。



全日本リコーダーコンテストに出場

平成25年12月22日(日)に開催された「第42回東京リコーダー協会主催・リコーダーコンテスト兼第35回全日本リコーダーコンテスト予選会」で、入間川小学校6年の新井千安里さん、渡辺俊介さん、岩谷優汰さん、寺嶋直さんが編成するアンサンブルが金賞を受賞しました。4人は、3月30日(日)に開催される全国大会へ出場します。

学校や自宅でやっている合同練習では、お互いの呼吸を目で確認しながら、丁寧に音を重ねていきます。目指すは、全国大会の金賞「花村賞」！頑張ってください。



新しい友だちができたんだ。またやりたい！

2月22日(土)／台っ子ワンパクひろば(狭山元気プラザ)

この日は、ジュニアリーダーが中心となって、16人の子ども達がユニホッケーを楽しみました。年齢を問わず、遊びをとおした交流の場作りを目指しています。



テーマは「日本語で話す私の思い」

2月16日(日)／SIFA日本語発表会(中央公民館)



外国籍の17名が、将来の夢や生活習慣の違いなどを発表。外国から日本に来て生活しているからこそ分かる文化の違いや、日本の良さを再認識しました。

狭山の今昔物語 Vol.36 — 柏原保育所 —

昭和29年7月に市制を施行した狭山市。当時、幼児のための施設は、入間川地区に民間保育園と公立幼稚園があるのみで、柏原地区では小学校を開放して就学前の子ども達に幼児学級を行っていました。地域の強い要望を受け、41年に柏原中学校の移転跡地に公立保育所第1号として誕生しました。



約50名の児童が楽しんでいた(昭和43年3月)ごしました(昭和43年3月)



昭和46年に防音コンクリート造へ建替え。同50年に新館増築

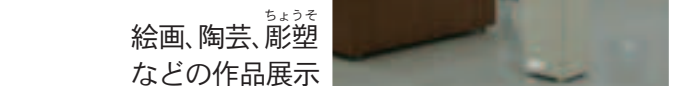
「愛」に満ちた舞台と展示に感動

2月18日(火)～23日(日)／狭山市民芸術祭(市民会館)

狭山市文化団体連合会と市民会館の共催で開催された「狭山市民芸術祭」。日ごろの成果発表にとどまらず、狭山の歴史や民俗などもテーマに盛り込んだ展示や舞台を展開しました。多岐にわたった文化・芸術発表に来場者は、盛大な拍手を送っていました。



舞台発表「世代を超えて」より～「入間馬車鉄唱歌」の合唱



ちようそ 絵画、陶芸、彫塑などの作品展示



舞台公演「つながる」より～タヒチアンダンスの発表

気迫のこもった接戦の連続

2月2日(日)／彩の国21世紀郷土かるた・狭山市大会(入間川小学校)

市内各地区の予選を勝ち上がった小学生173名が熱戦を繰り広げました。読み手の声に集中して、真剣なまなざしで絵札を見つめる児童たち。埼玉県の歴史や自然をテーマにした「かるた」を通じて、郷土の伝統に触れました。



高学年の団体、個人ともに上位3位までが県大会に出場



あなたが写っていませんか？広報さやまに掲載した写真は、広報課で撮影したものでしたら無料で差し上げます。広報課までご連絡ください。

シェア(共有)・・・そしてつなぐ協働社会

2月1日(土)／協働フォーラム(市民交流センター)

「若者が住みたくなるまち狭山」をテーマとして、2回にわたって開催されました。基調講演、グループワークを通じて生まれたキーワードは「互援(縁)」。みんなで手を取り合って社会課題に取り組んでいこうというメッセージが込められています。



高校生から70代までがグループワークで意見交換・発表

歴史と伝統を今に受け継ぐ

2月10・11日(月・祝)／梅宮神社の甘酒祭り

饗宴型の酒盛り祭りが、2日間にわたって開催されました。10日の宵宮には、盃を勧めては誼い(うやまい)をあげ、さらに盃を重ねる「座揃式」と呼ばれる神事が厳粛に執り行われ、11日の大祭では、参道の両側に露店が並び、境内は多くの人でにぎわいました。



お酒の味と香りを確かめつつ厳かに儀式が進められました